



2010年7月26日

みなさん、こんにちは。『林静一展』が、始まりました！開会初日には、林先生が来館されてイベントが催されました。今回は、そのご報告です！

● 『林静一展』初日、トーク&サイン会 開催

漫画雑誌『ガロ』に掲載された赤色エレジーやロッセの小梅ちゃんのイラストを手がけた林 静一先生の展覧会が、始まりました。

初日の午前9時から、開会式とエレベーターの完成記念式典が合同で行われ、北口市長をはじめとした関係者だけでなく、林 静一先生ご本人も列席されました。館内での開会式の後、場所を移動し錦城中学校吹奏楽部の演奏するファンファーレが響く中、くす玉割りが行われ、エレベーターの供用が始まりました！

その後、午前10時30分からは、会場での林先生のアーティストトーク。

カラーインクや日本画の作品にとどまらず、パソコンを使って制作を行うなど様々な画材・道具を使っていらっしゃるということや、広告のために制作した作品《潮騒》を例に、時代の空気を反映させることを意識して作品づくりをしているとお話しされました。

アーティストトークは午前・午後の2回行われ、トーク後はサイン会もありました。

多数の方が来られ、午前の整理券を手に入れられなかったある年配の男性は、あきらめず午後にも再来場し念願のサインを手に入れておられました。時間に限りがあり、希望されるすべての方にはご参加いただけませんでした。林先生のサインはイラスト入り、しかも達筆な文字で名前を入れて下さるので、幸運な60名の方々には良い記念となったことでしょう。

本展会期中は、月曜日もお休みなく8月29日(日)まで、林静一の抒情の世界をお楽しみいただけます。

供用開始したエレベーターの愛称を募集中です(~8月13日)。応募用紙の入手や詳しい情報については、明石市のホームページ(<http://www.city.akashi.hyogo.jp/>)をご覧ください。



式典の様子

(左から2人目が林先生)



サイン会・午後の部

● アクセスエレベーターをご利用ください！

梅雨明けが宣言された7月17日(土)、『林静一展』の開会式とあわせて、エレベーターの完成記念式典が行われました。

その後の午前10時30分からは、一般の方々にもご利用いただけるようになりましたが、エレベーターから上ノ丸をつなぐ橋梁からは、真っ青な空と明石海峡大橋が！…その時は撮影できなかったのですが、右(→)は夕闇のころのエレベーターです。

ご利用できるのは、午前7時～午後9時まで(全面禁煙)。定員17名。自転車でもご利用可能ですが、その際は自転車からは降りてくださいね。通行止めになっていた階段についても、ご利用いただけます。

なお、当館南入口については閉鎖しておりますので、ご注意ください。



夕闇のころ、撮影
三日月が見えるかな？

気になる！
前回の答は?!



● 林 静一とはっぴいえんど ～ 館長の Twitter (つぶやき) 4 ～

林静一との出会いは、もちろん漫画誌『ガロ』の「赤色エレジー」だが、何と言っても、私の音楽人生？を決定づける日本のロックバンド「はっぴいえんど」(大瀧詠一、細野晴臣、松本隆、鈴木茂)の1stアルバム『はっぴいえんど』(通称「ゆでめん」)のジャケット・デザインの作者として忘れることができない。



通称「ゆでめん」ジャケット

林さんが一人暮らしを始め、「赤色エレジー」を描いた十二社(じゅうにそう、西新宿付近の旧地名)には、当時町工場がたくさんあった。

「ジャケットに使った『ゆでめん』の工場もその中にあった。(略)『ゆでめん』の文字がタイトルの文字より大きくなり、ファンの方々に『ゆでめん』と覚えられ(略)以後このアルバムは『ゆでめん』で通用していると聞いた。(略)(林静一「モモコさんと僕」より)。

林さんによると、当時面識のなかった松本隆(のちに作詞家)から依頼があったらしい。「はっぴいえんど」は日本語ロックの先駆的グループであり、その世界は松本隆の作詞によるところが大きかったし、「ガロ」系漫画家に影響を受けていた松本の詩は絵画的でもあった。単なる漫画家ではなく、映像作家としての林静一に白羽の矢が立ったのも偶然ではなかったのかもしれない。

いずれにしろ、「かくれんぼ」「しんしんしん」「朝」・・・そして、極めつけは「春よ来い」——曲を聴いていると、目の前に映像が浮かんでくるようだ。

ちなみに、ジャケットそのものではないが、「ゆでめん」の絵は展示会場の中にある。

さて、前回(第332号)の「エレベーター」問題。解けましたか？ では、解答。

Aさんは、小さな子供です。背が低いので、エレベーターの2列に並んだボタンの「1」と「6」しか押せないのです。……ご納得いただけましたか？